

弘前市の基幹産業へ

弘前市における令和6年のりんご生産量は15万7000トンと推計され、全国生産量の4分の1を占めています。販売額は400～500億円規模で、国で統計をとっている「市町村別農業産出額」の果実部門において、10年連続1位です。販売額の大部分は県外への販売が占めており、弘前市にとって、りんごは地域外から収益をもたらす大事な産業となっています。



りんご産業としての発展

流通

収穫されたりんごの多くは、集出荷施設に集められ、専用の冷蔵庫に保管されます。りんごの収穫期間は8月下旬～11月ですが、貯蔵技術の発達により、長期間にわたってりんごを供給できているのです。



【写真提供】
つがる弘前農業協同組合

弘前にとってりんごは第一次産業にとどまりません。りんごを核として、流通・加工・資材・観光など、多岐にわたる関連産業によって「りんご産業」が形成され、地域の雇用と経済を支えています。

シードル

弘前市は、日本で初めて本格的なシードルが発祥した地でもあります。ニッカウヰスキー弘前工場で製造される「ニッカ弘前生シードル」をはじめ、多くのシードルが製造されています。



アップルパイ

市内には、アップルパイを提供しているお店が40軒以上あります。お店によって味わい異なる個性豊かなアップルパイは、観光コンテンツの一つになっています。



SNSでも話題！
アップルパイガイド
マップは第20版

NEXT100を目指して
りんご生産者を志す若い世代へインタビュー

大和沢小学校の恒例行事「創立記念決意表明」で、
将来は「りんご農家になる」と宣言！



大和沢小学校6年

齋藤 匠真 さん

好きなりんごの品種は「ふじ」です。
家族がりんごを作っていることと、りんごはおいしいから、自分もりんご農家になりたいと思いました。家では、収穫作業などを手伝っています。将来は、大きくて、真っ赤で、ほかの人から「おいしい」と言ってもらえるりんごが作りたいです。



大和沢小学校では、総合学習の時間で、年間を通したりんごの栽培体験を行っています。匠真さんたち6年生は、昨年度から引き続いての体験で、初めて作業する5年生に教えながら作業しています。

大学で勉強したことを生かして就農し、
生きるうえで欠かせない「食」を支えたい



弘前大学 農学生命科学部

谷淵 瑛太 さん

小さいころから祖父母の畑の手伝いをしていました。中学生の時に将来の進路を考える中で就農を決意し、この地域の基幹産業であるりんご栽培に興味を持ちました。祖父母の頑張りを知っているので、その精神を受け継ぎながら、新しいことにも取り組んで、日本の農業を良い方向に変えていければと思います。

大学で勉強したことを生かして、農業者が夢を持てるよう、まずは自分で収益をあげて、農業の魅力をPRしていきたいです。

全国的に高齢化や人口減少が課題となっているなか、りんごを基幹産業としている弘前市にとって、担い手減少に伴うりんご産業の衰退は市民生活に大きな影響を及ぼします。先人たちの努力や情熱と、りんごの恵みに感謝しながら、次の100年（NEXT100）につないでいけるよう、地域ぐるみでりんごを守っていきましょう。

